

■テーマ展

新指定文化財展

会期 平成22年6月1日(火)～7月4日(日)

会場 特別展示室

文化庁と岩手県教育委員会では、重要な文化財を保存・活用し、国民の文化的向上に資するとともに、わが国の文化の進歩に貢献することを目的として、文化財保護法や岩手県文化財保護条例に基づいて、文化財の指定等を行っています。当館では、数年おきに、「新指定文化財展」を開催し、県内外の皆様にご貴重な文化財を紹介しています。

今回は、平成19年度から平成21年度にかけて、国または岩手県の指定等を受けた文化財を、実物や写真・関連資料の展示により紹介いたします。本展が、県の宝ともいうべき文化財の素晴らしさを再認識する機会となれば幸いです。

◇発掘された文化財◇

奥州市の大清水上遺跡は縄文時代前期後葉（約4,800年前）の環状集落遺跡です。直径約20mの中央広場を囲むように、平均長径12m、短径5mの長方形の大型竪穴住居62棟が、環状に配置されています。環状集落全体の大きさは、直径約110mです。大清水上遺跡は、当時の拠点的な大集落の典型であるとして、国指定史跡になりました。



大清水上遺跡
(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・写真提供)



上須々孫館経塚出土品
(北上市教育委員会蔵)

上須々孫館経塚出土品は、北上市和賀町煤孫の上須々孫館経塚から出土したものです。経塚とは、仏教の經典などが納められた場所のことです。陶器の壺など6点からなり、いずれも12世紀後半のものと考えられます。これらは奥州藤原氏の時代の宗教観や流通経済を知る上で重要な資料です。

◇平泉の文化◇

奥州藤原氏に関連する特別史跡・史跡である無量光院跡、柳之御所・平泉遺跡群、金鶏山については、今回新たな範囲がそれぞれ追加指定されました。

無量光院跡は奥州藤原氏の拠点であった寺院の跡で、特別史跡に指定されています。東西230メートル、南北320メートルの規模と推定され、敷地の南側には築山状の高まりも残されています。

金鶏山は江戸時代より金の鶏が埋められたとの伝承が伝えられる山で、山頂には経塚がつけられています。経塚からは壺や甕が掘り出されており、奥州藤原氏と密接に関係していると考えられます。当時の毛越寺周辺の町づくりの基準となりました。

柳之御所・平泉遺跡群は、奥州藤原氏の平安時代末期の遺跡である柳之御所遺跡と周辺の遺跡によって構成されています。柳之御所遺跡には大規模な建物跡が見つかったほか、12世紀ごろの土器など、大量の遺物が出土しました。藤原秀衡

の政庁(政務を行う場所)である「平泉館」に推定される遺跡と判明し、史跡に指定されました。また、柳之御所遺跡周辺部の遺跡として、これまで「白鳥館遺跡」、「長者ヶ原廃寺跡」などが史跡として指定されています。今回の指定では、12世紀後半の手づくねかわ

らけが出土した「接待館遺跡」等が新たに追加されました。

◇神仏への祈り◇

盛岡市の源勝寺に伝わる銅造観音菩薩立像は、国の重要文化財に指定されました。白鳳時代に製作されたこの像は、着衣や装身具のデザインにおいて、法隆寺金堂壁画の菩薩像と共通点が見られます。7世紀から8世紀にかけて、中国



紙本着色鍛冶神図
(岩手県立博物館蔵)

の「初唐様式」が日本で受け入れられ、発展していく過程で制作された貴重な仏像といえます。

岩手県では、製鉄や鉄工芸品の生産が盛んに行われ、人々は火の神を信仰してきました。製鉄の神である、たたら神を描いた「紙本 著色 たたら神図」と、鍛冶(鉄製品を製造すること)の神である鍛冶神を描いた「紙本 著色 鍛冶神図」はともに県の有形文化財に指定されました。江戸時代前期に描かれたとされる2つの作品は、火の神である三宝荒神を中心として関係の神仏が多く描かれた、優れた作品です。

◆くらしを支える文化財◆

「似鳥のサイトギ」は二戸市の似鳥八幡神社で毎年旧暦1月6日の春の例大祭に合わせて行われる行事です。今回、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。飯を剣の形に作って凍らせた「オコモリ」が準備され、これが硬く凍ったままであれば、その年は豊作になると伝えられています。また、当日は木を積み上げた「サイトギの木」という作り物に火がつけられます。若者たちが「サイトギの木」をたたいた際に飛び散る火の粉の様子でその年の作柄が判断されます。



似鳥(にたどり)のサイトギ
(二戸市教育委員会・写真提供)

「南部絵暦 盛岡暦 金澤コレクション」

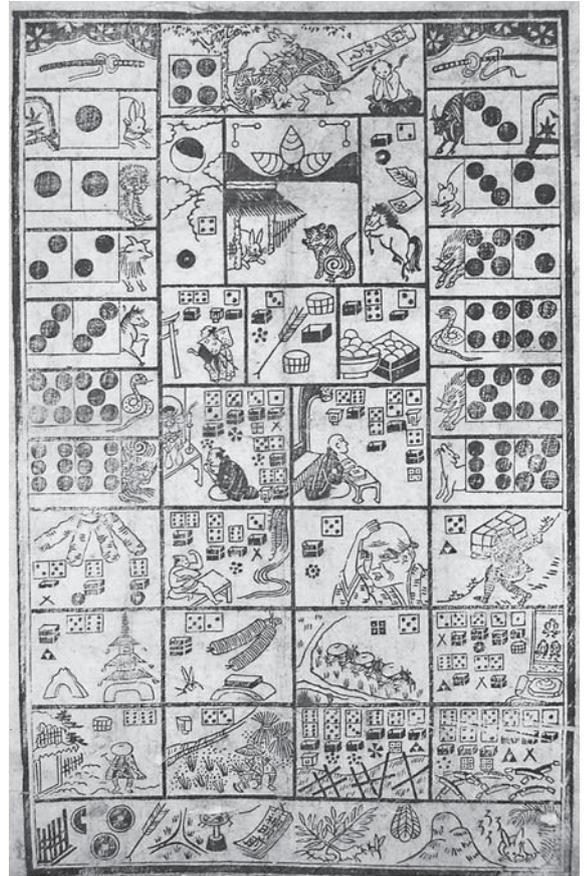
は県の有形民俗文化財に指定されました。南部絵暦は、文字の読み書きが出来ない人も理解できるように作られた暦です。文字のかわりに絵によって表現され、「田山暦」と「盛岡暦」という2種類の暦があります。「田山暦」が一枚ずつ作成されたのに対し、「盛岡暦」は版木を利用して多数印刷されました。明治初めまでの「盛岡暦」32種類のうち、今回対象となった物件は半数近くを占めます。「盛岡暦」の移り変わりを理解する上で、貴重な資料であるといえます。

◆岩手のたても◆

国の重要文化財に指定された千葉家住宅は遠野市にあります。千葉家の由緒は明らかではないものの、江戸時代中期には農業を営み、のちに武士の身分を得たとされています。主屋は曲り屋形式で、江戸時代末に建設されたと伝えられています。千葉家住宅主屋は南部曲り屋が分布する地域の中で南に位置し、大型の曲り屋として高い価値が認められます。また、大工小屋など周辺部の建物は江戸時代末から大正時代にかけて建設されました。

◆自然の営み◆

宮古市田鎖神社のブナ・イヌブナ林は、県の天然記念物に指定されました。北上山地沿岸地域の中で原生的な様相が保たれた、貴重な森林であるといえま



文久四年盛岡暦
(岩手県立博物館蔵)

す。また、1995年には樹皮が典型的なブナと明らかに異なる個体が発見されています。



田鎖神社のブナ・イヌブナ林
(大上幹彦氏 撮影)

(学芸調査員 原田祐参)

展示解説会

6月6日(日) 14:30~15:30
特別展示室 要入館料